

外国人と日本人とが、ともに豊かに生きる地域社会を!

ハロー フレンズ

ファイセック

FICEC

発行

ふじみの国際交流センター
Fujimino International Cultural Exchange Center

2007年 **6**月号(隔月刊) 第91号

地域のバスケットクラブと共同で 毎週日曜日に開催 国際スポーツクラブ

FICECの「国際スポーツクラブ」は、毎週日曜日にふじみ野市の市民スポーツクラブ「ふじみ野総合型地域スポーツクラブ」との共同で、バスケットボールの練習会を開催している。ここでは、子どもから大人まで、初心者からベテランまでが気軽にバスケットを楽しんでいる。(4ページに関連記事)



ふじみの国際交流センター総会のお知らせ

さわやかな季節になりました。会員の皆様はいかがお過ごしですか。

平素はふじみの国際交流センターの活動を理解し、支援して下さいることを心からお礼申し上げます。お蔭様でセンターは、昨年の荻野吟子賞に続き、今年は総務大臣賞を受賞することが出来ました。これは会員の皆様をはじめ、県や二市一町の行政の方々等、大勢の皆様のご支援があったればこそと、感謝しております。

センターも11年目を迎え、在日外国人事情もさまがわりする中で、時代に即した活動が続けられるように、皆様のアイデアやご意見を聞かせていただきたいと思っています。お時間をやりくりして是非、総会にご出席ください。

2007年6月17日(日) 午前10時~12時

場所 ふじみの国際交流センター

なお、総会后500円会費にて軽食をとりながらの懇親会を計画しております。駐車場がないためにご不便をおかけしますが、大勢の皆様の参加をお待ちしております。

外国籍の人たちの一時保護施設 = シェルター 夫の暴力などからの “駆け込み寺” 日に日に顔が明るくなっていくのが “励み”

ふじみの国際交流センター（FICEC）では、外国人支援の活動の一環として「シェルター」の事業を行っている。「シェルター」というのは、行く場所のなくなった個人や家族に対して一時的な宿泊場所を提供することだ。

FICECでは、外国籍市民からの生活相談を受ける活動を行っているが、そうした相談の中には、日本人と結婚した外国人女性からの「夫からひどい暴力を受けている」あるいは「夫から追い出されて住む場所がない」といった深刻な相談も含まれている。「シェルター」は、そうした行くアテのない人たち（多くは母親と子どもたち）に、一時的な宿泊場所を提供して保護するもの。そして、FICECでは、そこに入っている間に新しい生活のための仕事やアパートなどを探す手伝いをするといった活動を行っている。

センターを創立した 大きな理由の一つ

もともとシェルターの活動がはじまったきっかけは20年ほど前にさかのぼる。FICECの現理事長の石井ナナエさんは、1980年代に旧大井町（現ふじみ野市）の公民館で外国籍市民のための日本語教室を始めたが、受講する外国人からは、生活相談も寄せられたと話す。「日本人の旦那さんにいじめられたとか、夫婦でうまくいかないとか逃げてくる外国籍の女性がいました。日本人なら実家に行けばいいんでしょうが、外国人ではそういうアテがないんですね。それで、私の家に泊めるんですが、一時期はそういう人が何人もいて雑魚寝状態になったこともありました」と石井さん。

そこで、そうした外国人のための一時的な保護施設を作りたいということもFICECを設立した要因の一つだったとのこと。

「そのころは、地域に住む外国人は一人暮らしが多くて、そういう人がいつでも集まれる場所を作りたい。いつでも日本語を教える場所を作りたい。それから困っている外国人を保護するシェルターを作りたい。その三つがセンターを作った理由です」

FICECは1997年の創立。そのときの拠点（旧上福岡市）は、民家を借りたもので風呂の設備もあり、その家の一室をシェルターに充てていた。しかし、その民家は2003年に契約が切れたため、富士見市内に拠点を移すと同時に、その施設の中にスタッフが宿泊室を“自作”して運営していた。その後、スタッフの自宅の一部を提供してもらうなどして継続。その後、FICECは再びふじみ野市に移転したが、そこからそう遠くない場所にアパートの一室を借りて、シェルターとして運営している。

まずは生活するための 地域の案内

現在、FICECのシェルターは、埼玉県の委託事業としても行われている。長年、外国人生活支援の活動を行っており、その実績とノウハウが認められているからだ。

県からの委託などで入居希望者があると、

FICECでは、スタッフがまずシェルターとなるアパートの備品などを点検する。ふとん、食器、テレビ、冷蔵庫、洗濯機等々だ。生活のために足りないものがあるときは、人づてに不用品を譲り受けるなどして用意しておく。

DV被害を受けてシェルターに入る人は、夫などから逃げてきているので、家財道具はもちろん、下着などの着替えさえ持っていない場合が多い。そして同じ理由から、たいていは県内でも遠方から来た人たちだ。つまり、土地に詳しくないので、まずスーパーや病院、公共施設など生活に必要な土地の施設などを案内する。その日からシェルターで生活するので、スタッフが同行して食事のための買い物などをしながら、土地を案内して回る。

暴力の記憶から 眠れないことも

「入居する人たちは、頼りになる知人もいない日本で行くアテがなくて、これからどう生活したらいいか、本当に不安なんですよね。それと、夫からの暴力を受けているので、フラッシュバックして、夜も眠れない日が続くこともあります。子どもたちも、『今日は寝ていいの?』なんて聞く子もいます。だから、『ここは、あなたたちだけの家なんだから、安心して寝ていいよ』って言ってあげると、ホッとしたような顔になります」と石井さんは話す。

次第に表情が 明るくなってくる

シェルターでの生活が始まると、FICECではスタッフが親の仕事探しや子どもがいる場合は転校の手続き、さらに生活保護費の申請などを手伝って行く。外国籍の人たちだけに、日本語が不十分な場合もあり、日本語指導をすることもある。FICECでは、こうしたシェルター入居者の世話をするために、毎日ボランティアスタッフが交替でセンターに詰めて対応している。

DV被害者の人たちがシェルターにいるのは40日程度。そのころになると生活保護費が支給され、アパートを借りたりして新しい生活を始めることができるようになる。しかし、FICECとのかかわりはそれで終わるわけではない。自立するための仕事探し、子どもたちの場合は学校での勉強、さらに日本語の勉強や生活上のさまざまな困りごとなどについて、相談に乗っていくことになるとのことだ。

FICECで生活相談やシェルターを担当しているスタッフの一人、半田栄子さんは、「最初はすごく暗い顔をしていた人たちが、日に日に明るくなってくるんですね。そういう表情の変化を見ていると、すごく世話をする励みになります」と話す。

(取材：内藤忍)

ご協力の お願い

外国籍の人たちの世話をしていただけの方 シェルターの備品（生活用品など）のご提供

センターでは、シェルターに入居者があった場合に、その人たちの相談に乗ったりしていただけるボランティアスタッフを募集しています。ウィークデーの昼間、センターに詰めていただくのがその仕事です。ぜひ、ご協力ください。

また、シェルターの入居者のために冷蔵庫、洗濯機、テレビなどの中古家電や、食器、衣類のご提供も求めています。不用品がありましたら、ぜひご提供をお願いいたします。

お気軽に、ふじみの国際交流センターにご連絡ください。(Tel : 049-256-4290)

国際スポーツクラブ



ふじみ野総合型地域スポーツクラブ
に合流参加

バスケットボールで楽しむ国際交流 子どもや女性でも楽しめる 多彩なメニューが特徴

毎週日曜日の午後7時～9時半に、ふじみ野市の「福岡中学校体育館」で開催されている「ふじみ野総合型地域スポーツクラブ」は、昨年まで「日曜バスケ」という名称で開催されていたバスケットボール練習会。このクラブに、ふじみの国際交流センター（FICEC）が「日本人と外国人とがともにスポーツを楽しむ」という目的で合流参加している。

このクラブの特徴は、「子どもから大人まで、さまざまなレベルに応じてバスケットボールを楽しむ」という点。バスケットボールのベテランコーチも毎回参加して、経験者のゲームばかりでなく、子どもや女性など初心者への指導メニューも充実している。

ここには、2年ほど前からFICECなどを通じて外国籍市民も多数参加している。ほとんど毎回のように参加している中国籍のオウ・キさんとコウ・ヨウジュンさんに、同クラブについての感想などを聞いてみた。

【オウ・キさん】

日本に来たのは5年前です。2年前に大学に合格し、上福岡に移り住み、新潟大地震の外国

人救済向けの募金活動をしているのを見て、その活動をしていたFICECを知り、「国際スポーツクラブ」を知りました。ウォーミングアップやシュート練習をみんなでやったりすることが新鮮で、いろんなテクニックを教えてもらったり、話をしてなじむことができました。またバスケ後にみんなで食事に行ったり、ボーリングに行ったりして楽しんでいます。バスケもしたかったし、日本人とも交流したかった。だからこのクラブの活動はもっと活動日が増えてもいいくらいです。

【コウ・ヨウジュンさん】

はじめてクラブに参加した時は、メンバーの日本人がとても親切で入りやすかった。バスケ後にみんなで食事に行って、日本語でおしゃべりすることも有意義でした。バスケが上手な日本人と一緒にやる時は、ついエキサイトしていました。日本に来ている中国人留学生のすべてが、日本人とのコミュニケーションを目的としているわけではないと思いますが、日本語学校や大学で国際交流に興味がある留学生たちに宣伝していけば、スポーツで国際交流の輪がもっと広がると思います。（取材・写真：篠島幹昌、内藤忍）



オウ・キさん



コウ・ヨウジュンさん



親子 de おいしい国際交流

子どもも親も
料理を作って食べて、
楽しくおしゃべり



「子どもとともに育つ親の会」5月のイベントは「親子 de おいしい国際交流」と題して、地域に住む外国籍の方から外国の料理を教えてもらって作りながらのおしゃべり。予定ではベトナム料理でしたが、講師の方の都合で、急きょインドから来たシュエタ・チャトゥルベリさんを囲んでの会となりました。作ったのは、「ブレッドロール」と「フルーツクリーム」。ブレッドロールは、茹でたポテトをつぶして、水に浸した食パンと混ぜ、香草を加えて油で揚げる料理。ほんのりと香りのきいたハッシュポテトふうでした。フルーツクリームは、ヨーグルトと生クリームがさわやかなデザート。子どもたちは、口の回りをクリームだらけにしながらかけていました。

なお、料理の作り方はFICECのホームページに掲載予定です。

<http://www.ficec.jp/school-club/oyanokai.html>



ボランティアスタッフのミーティング開催 今後の方向性などを検討

毎週土曜日、午前10時から2時間、外国籍児童に日本語を教えたり、教科学習の補習をしたりしているのがFICECの「国際子どもクラブ」。4月21日にはボランティアスタッフ同士の親睦会を兼ねたミーティングが開催された。場所は、FICEC近くのレストラン。現在、子どもクラブには10名ほどの人たちがボランティアとして子どもたちの指導に当たっているが、今回のミーティングにはその半数以上の6名が参加し、なごやかながら、活発に意見が交換された。

子どもクラブは、今年11年目を迎え、学習する子どもたちや、それに対応するボランティアの人たちも増加しているところ。このミーティングは、学習者の環境及びニーズの多様化などの変化に対応すべく、課題を整理して、今後の方向性や解決策を検討するために開かれた。



学習者の参加意欲の向上、日常的な日本の風習やそれに関する言葉を習得するための方法や、受験対策、ボランティア側のスキルアップや情報の共有化など、さまざまな観点から、多くのアイデアが検討された。

今後、これらの案を取り入れ、体系的に進めることによって、子どもたちが、より快適に、効果的に学習できることが期待される。

(文：上原美樹)

たくさんのご寄付に御礼申し上げます

民設民営で、「在日外国人の自立の支援と共生の街づくり」を目指して、ふじみの国際交流センターが活動を始めて10年になりました。

その間(株)オムテック様、青峰社様、海老原夕美法律事務所様、東入間遊戯業防犯協力会様、国際ソロプチミスト様、カトリック上福岡教会様をはじめとして、大勢の皆様から多大なご寄付をいただきました。「頑張ってるね。応援してますよ」と言って下さる声が聞こえてきます。背中をポンとたたいて下さっている笑顔が思い浮かんできます。私たちは、活動資金と一緒に大きなエネルギーもいただいています。何とお礼を言ってもいいかわかりません。

受益者負担が不可能な私たちのNPO活動は、皆様からいただいたご寄付によって成り立っています。これからも、皆で力を合わせ、まじめに地道に活動を続けてまいります。今後もお支援いただくよう、お願い申し上げます。本当にありがとうございました。

ふじみの国際交流センター (FICEC) 理事長 石井ナナエ

国際わいわいクラブ 頑張る若手スタッフ 増えるジュニアリーダー 応援するおじさん日誌

5月12、土曜日、ふじみ野交流センターには60名近い子どもたちと親、そしてスタッフが集まった。今年度の「国際わいわいクラブ」年間テーマは『World Word Masters ～世界の言葉で挨拶しよう』で、その第一回のプログラムを実施した。

今年度は対外的な募集広報をしなかったが子どもは60名を超えた。口コミによる参加増である。その期待に応えるためにも少数のスタッフは毎週木曜の夜にミーティングをしている。今年は参加対象である小学校を卒業した子ども6人がジュニアとして、さらに高校生もスタッフになり盛り上げている。このように参加した子どもたちが成長しスタッフとして関わってくれることはわいわいクラブのみならずセンターの財産である。

少子化時代にありながら、わい

わいは異世代交流や学校や家族とは趣が異なる兄弟的な関係構築の場でもある。上級生は低学年の子どものお世話をするといい役割も立派に果たしている。しかし整然としてばかりいないのはわいわいの特徴、いつもわいわいがやがやにぎやかで活気あふれている。

創設者の一人である私の役割は第一線から引き、今は打ち上げの料理人として、顧問的な相談役を担う応援団を任じている。

(齋藤信夫)

私は毎年この時期になると、センターが1年間に受けた生活相談の集計を出す。毎年、550件にもなる記録を打ち込みながら、私の知らないところで相談者と対応しているスタッフのことを思う。心細いときに、スタッフの言葉はどれだけ相談者の支えになっているだろう。

DV 被害者支援ボランティア養成講座で、ある講師が「自立とは、

互いに支える力

助け合うことができるということ」と話したのを思い出す。助けてもらうことは少しも恥ずかしいことではない。その自分自身にも人を支える力があると自信を持ってほしいということなのだ。

理事長の石井さんがある講演会

で「公民館でたくさんの方を学ぶ機会をいただいた。その感謝の気持ちを自分にできることで地域に返していこうと思った」と話した。自分をこっち側あっち側と決めつけてはいけないのだ。支える力が交互に行き交うようなセンターであつたらいいと思う。そして自分にも問いかける。どこかで受けた優しさにちゃんとお返しができるだろうか。(長谷川正江)

すべてがお膳立てされているかのようにだった。良妻賢母と働く女性を両立させようと、家で出来る仕事を選んで結婚、そして出産、育児と穏やかな平凡な日々が続いていた。運転が出来ることと時間が自由になることにつけ込まれたのか、見込まれたのか、教会のシスターによく外国人の引越しの手伝いを頼まれていた。そして外国籍母子との出会い、その支援から何か動き始めた。外国人の抱える問題にアンテナを張り始め、ボランティア講座に出席。そこで、後にふじみの国際交流センターの代表になる野元先生の話の聞き、地域国際交流センターの設立を呼びかけるチラシを受け

取り、そのまま第一回の会議に出席していた。そこで現石井理事長を始めとする旧上福岡市・旧大井町・富士見市各地域の日本語ボランティアの方々との出会いがあり、5ヶ月後それまでなかった三芳町に日本語教室を立ち上げていた。何の知識もない私たちに、日本語指導の方法を伝えてくれる仲間も与えられた。その頃漠然としていた外国人の生活相談から、私の中で、日本人と結婚して日本でずっと暮らしていく女性に、さらにその母親が一番守りたい子どもへと優先順位が絞られていった。一年後には、後先省みず、日本語がわからない子どものいる学校へ飛び込んでいったのを覚

明日の課題

えている。生活相談、勉強会、日本語指導、こどもの日本語学習支援、教材作成などを通じ、ふじみの国際交流センターが充実、発展してきた10年間の活動と一緒に加わられたこと、たくさんの人と出会えたこと、そして何より私自身成長させてもらったことの蓄積はとて大きい。この10年をくぎり、明日の自分に何が課せられようとしているのか、今、静かに待っている。(梶加寿子)

センターの活動をご支援ください
会員・賛助会員・寄付のご案内

●活動を担う会員……正会員

正会員は、スタッフなどとして活動を担っていただく会員です。この会員は、総会などでの議決権をもちます。

年会費：個人1口 3,000円、団体1口 10,000円

●センターを財政的に支える会員……賛助会員

賛助会員は、センターを財政的に支えていただく会員です。総会等での議決権はありませんが、センターのイベントなどのご案内や、機関誌をお送りいたします。

年会費：個人1口 3,000円、団体1口 10,000円

会員、賛助会員にはこの機関紙をお送りします

郵便振替口座：00110-0-369511
 口座名：ふじみの国際交流センター

ご寄付をいただいた方々

ご支援ありがとうございます

●2005年4月～(50音順・敬称略)

青木和雄、阿澄康子、穴沢エミリン、荒田光男、石井ナナエ、伊藤智明、伊藤真弓、いも煮会、岩田ひさよ、岩田仁、上島直美、エスコラピラス修道士会、江原工業、海老原夕美、遠藤宏子、大関優、太田原裕、小沢ビクトリア、小原富明、(株)オムテック、カクセイジヨ、葛西敦子、加藤久美子、カトリック教会、金子朝子、金子忠弘、神田順子、金文玉、栗島三千代、候、国際ソロプチミスト、後藤泰博、駒形一夫、サークルクムスタカ、庄子一雄、申常午、菅山修二、鈴木譲二、鈴木美佐子、染谷英子、高橋郁子、高橋恭子、武田和子、田中正江、チョン玄淑、常西カツエ、デュオ、寺村壁如、戸塚成子、内藤忍、中嶋恵津子、仲田京子、中村禎作、萩原千代子、橋本弘美、長谷川正江、羽石貴裕、羽石電気、半田栄子、東入間地区遊技業組合、広木加代子、藤林泰、三芳アジア友の会、百瀬晃、森田信子、矢野やす子、山崎友理、若林祥文

●ご寄付は税金の控除や損金参入の対象となります

ふじみの国際交流センターは、国税庁からの認定を受けた「認定NPO法人」ですので、ご寄付は、法人であれば損金参入が認められ、個人であれば寄付控除の対象となります。

ふじみの国際交流センター(FICEC)のスクール、クラブ

<p>日本語教室 「生活に役立つ日本語の習得」を目標に、日本人が日本語で教える教室。 ●毎週木曜日 午前10時～12時 受講料：無料</p>	<p>国際こどもクラブ 日本語が不自由な子どもたちに日本語や勉強を教えます。 ●毎週土曜日 午前10時～12時 受講料：無料</p>	<p>パソコン教室 外国人、日本人にパソコンの技術指導をします。 ●月2回土曜日開催 午後1時～3時 受講料：日本人1000円 外国人300円</p>	<p>国際スポーツクラブ 上福岡の中学校体育館でバスケットボールを楽しみます。 ●毎週日曜日 午後7時～9時半 参加費：大人100円</p>
<p>中国語教室 学習者の中国語能力により、初級、中級上級に分かれて学習します。 ●毎週金曜日 午前10時～12時 冷暖房1回200～300円</p>	<p>韓国語教室 韓国語初級講座。韓国人の先生が、やさしく丁寧に教えてくれます。 ●毎週月曜日 午前10時～12時 受講料：1回500円</p>	<p>ポルトガル語教室 ブラジルで通訳の仕事をしての方が指導してくれています。 ●毎週火曜日 午前10時～12時 受講料：1回1000円</p>	<p>英語教室 初心者を対象としたスクールです。グループで楽しみながら勉強します。 ●毎週水曜日 午後7時～ 受講料：月4回4000円</p>

編集後記

あなたも編集委員会に加わってください。大歓迎です。

■今年社会人デビューしました。いっしょにデビューされた方はいかがお過ごしでしょうか。私は、ミスばかりで一日に何度謝っているかわかりません。逆に仕事量を増やしてしまっているにも関わらず、見守ってくださる職場の方々本当に助けられています。失敗を恐れず、前を見て突っ走ります！（石原）

■先日、フィリピン料理に初めてチャレンジしました！驚いたのは、野菜の量！たか

さんの種類の野菜を大量に使っていました。自分の普段の食事を思い出し、反省。夏に向け、たくさん野菜を食べて、ヘルシー&ナイスバディを目指します！（上原）

■今回は「国際スポーツクラブ」を取り上げました！普段一緒にスポーツを楽しんで、たわいもない話をして、盛り上がる仲間たちですが、今回インタビューをしていると、話がふくらんだり脱線して、気がつ

けば夜更けまでの座談会に（笑）。仲間の考えや思っていることから、再発見することもたくさんあり、自分自身が学ばせてもらいました！！（篠島）

■本誌は偶数月の1日発行。その前月末までには印刷を完了したいのだが、この数回はそれが実現できなかった。しかし、今回は5月中に印刷できそう。要するに原稿を早めに書けばいいのだが、それがなかなか至難、至難。（内藤）

編集スタッフ

発行者：石井ナナエ（センター理事長）
 編集委員（50音順）：阿澄康子、荒田光男、岩田仁、石原怜実、上島直美、上原美樹、王祺、王賛博、川田明香、黄耀潤、斉藤恵子、篠島幹昌、内藤忍、長谷川正江、山崎友理

特定非営利活動法人ふじみの国際交流センター

〒356-0004 埼玉県ふじみ野市上福岡5-4-25
 Tel:049-256-4290 Fax:049-256-4291
 生活相談専用電話:049-269-6450